

視聴覚教育

NO 149

発行日
元. 1. 9
発行
岡崎市 AVL
編集
広報委員会

多くの情報を前に

視聴覚ライブラリー運営委員長

大須賀 明彦

消費税に対する新聞の扱いを見てみると、十二月二十四日までの新聞は、消費税法案に反対する意見に埋め尽くされているように見えました。内容を詳しく読んでもいけばまた違った感じを持ったかもしれません、見出しの大きな活字を見る限り、これほどの悪法はないというような感じがします。

ところが二十四日にこの法案が可決され、一夜明けた二十五日の朝刊になりますと、野党との妥協のため多くの特例が設けられ、世論の反発を恐れて法案の修正がなされ、消費税法の長所が失われる心配があると伝えた大きな見出しが目にできます。

大きな見出しの文字を見る限りでは、消費税法というのではなく多くの長所を持った法案だったのかと思つてしまします。

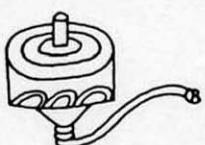
同じ新聞に、ある野党の党主の談話として、我々は多くの修正を勝ちとったということが掲載されています。何が何だかさっぱりわからなくなっています。

これらいくつかの記事は、いずれも事実を述べたということでは、まちがいないと思います。しかし、そのどの記事一つをとっても、必ずしもそれが真実を述べているとは言い切れません。

現代は情報化社会と言われます。朝から晩まで間断なく新しい情報が提供されます。多くの情報が提供されること 자체は決して悪いことではありません。むしろ望ましいことだと思われますが、情報の受け手の側に、その情報を適切に処理する能力がなければ、情報洪水に押し流される木の葉のようになってしまいます。

私たちがほとんどそういう能力を持たなくなつたとき、情報を送る側に、世論を作り上げ、世論を操作するといったことが行われる心配も出てきます。これは本当に恐ろしいことです。

私たち教師は、柔軟な思考力をもつ子どもたちを指導する立場にあるのですから、多くの情報を適切に処理し、真実を見抜く力を子どもたちに身につけさせなければならぬと思います。それが今ほど必要な時はないようになります。それと同時に、私たち自身が比較的簡単に視聴覚教材を作れるようになりましたから、制作に当つては単に事実を述べるにとどまらず、真実を伝えていくよう細心の注意を払わねばならないよう思います。



心に訴える道徳の授業

六ツ美中学校 原田平

中学二年生の道徳「泣いた赤鬼」の授業を見ることができた。この授業では、生徒の心情に訴えかけるよう視聴覚機器を利用して、資料の提示がなされていた。

導入の段階で「泣いた赤鬼」の指名読みの時、絵本の挿絵を描いた数場面のTPを紙芝居風に投影して見せていた。小学生向けの絵本の絵であり、おもわず吹き出してしまいそうな赤鬼、青鬼が登場して、ほのぼのとした温かさが伝わり、生徒は楽しそうに視聴していた。

話し合いは、赤鬼、青鬼の立場で「友への思いやりとはどんなものか」「眞の友情とは……」という観点で意見が発表された。



生徒の友達を思いやる気持が欠如してきたことを嘆いた先生が、一度は授業で扱つてみたいと長い間、温めてきたのがこの「泣いた赤鬼」だということである。

整理の段階で、声優の演ずる「泣いた赤鬼」のテープの最後の場面を聞く。しみじみとした語りより貼り紙を見て泣き出す赤鬼の様子がイメージ化され、生徒は目を輝かせて聞きいっていた。録音教材は映像教材より、イメージが広がるので、使い方によつては心情に強く訴えかけることができ、心に残る授業ができると確信した。

岡崎市自作TP作品入選者発表！

昭和六十三年度

●幼稚園 二点

広幡幼稚園（共同制作）
矢作幼稚園（共同制作）

●小学校 二十六点

杉山 隆之（梅園）	河合美智代（根石）
松井 敬子（羽根）	米津 典子（岡崎）
山田真寿美（連尺）	浅井 君枝（連尺）
山田 和子（秦梨）	今枝 武司（秦梨）
小久井美香（常磐）	江坂 良夫（岩津）
藤枝イト工（岩津）	三木世紫枝（大樹寺）
吉田 章二（大樹寺）	鈴木理栄子（大樹寺）
山本 健治（大樹寺）	鈴木 考幸（大樹寺）
山口 政之（大樹寺）	柴田 弘子（大樹寺）
鈴木 種春（大樹寺）	三浦 敬子（大門）
高橋 啓三（矢作南）	江坂喜美代（六美北）
浅井 近（六美南）	名倉 嘉章（上地）
河合 友子（上地）	孝之・佐藤 敬子・岩村 尚美（常磐）
竹内 十点	和広（美川） 山本 信夫（美川）
高木 和広（美川）	近藤 文彦（南）
櫻井 公治（南）	山田 賛平（常磐）
内藤 広光（南）	山田 文子（竜南）
鈴木 則夫（矢作北）	竹内 昭博（矢作）
渡辺 総意（矢作北）	杉山 文子（竜南）